

三沢市地域公共交通会議 会議録

| | | | | | | |
|---|--|--|-----|-------|-----|--------|
| 会議名称 | 平成23年度第1回会議 | | | | | |
| 開催日時 | 平成23年4月26日（火）14時00分～15時45分 | | | | | |
| 場 所 | 三沢市役所 本館4階 大会議室 | | | | | |
| 出席者 | 会 長 | 小渡 章好 | 委 員 | 坂本 幸子 | 委 員 | 宮崎 倫子 |
| | 委 員 | 田中 和男 | 委 員 | 中村 浩一 | 委 員 | 小笠原 和彦 |
| | 委 員 | 佐藤 美仁 | 委 員 | 佐藤 範幸 | 委 員 | 小泉 眞章 |
| | 委 員 | 遠藤 恵介 | 委 員 | 鈴木 唯一 | 委 員 | 山本 文彦 |
| | 事務局 | 三沢市：米田政策財政部長、堀課長補佐、出戸係長、種市主事 千代田コンサルタント：松浦、川崎 ITSアライアンス：若山 | | | | |
| 会議次第 | <ol style="list-style-type: none"> 1 開 会 2 市長挨拶 3 会長挨拶 4 新委員紹介 5 議 事 <ul style="list-style-type: none"> (報告事項) 平成22年度三沢市地域公共交通会議予算の事故繰越し (協議事項) (1) 平成23年度事業計画の見直しについて (2) 地域公共交通確保維持改善事業について (3) 三沢市コミュニティバス「みーばす」車両デザイン公募作品審査 6 諸報告 <ul style="list-style-type: none"> (1) 三沢市コミュニティバス愛称募集に係る受賞者表彰について (2) あしあとランプの新ダイヤへの対応状況について 7 閉 会 | | | | | |
| 会議の経過及び審議結果（概要） | | | | | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1 開 会 2 市長挨拶 3 会長挨拶 小渡会長挨拶 4 新委員紹介 <ul style="list-style-type: none"> ・ 三沢市建設部土木課 課長 小泉眞章 ・ 三沢市政策財政部 政策調整課 課長 山本文彦 (事務局：三沢市政策財政部 部長 米田光一郎) | | | | | | |

5 議 事

(報告事項)

【平成 22 年度三沢市地域公共交通会議予算の事故繰越し】

事務局等から資料「報告第 1 号」を説明し、全会一致で了承された。

(協議事項)

【(1) 平成 23 年度事業計画の見直しについて】

事務局等から資料「協議事項 (1)」を説明し、全会一致で了承された。

【(2) 地域公共交通確保維持改善事業について】

国土交通省東北運輸局青森運輸支局 田中専門官から資料「協議事項 (2)」を説明。

事務局等から資料「協議事項 (2) 参考」を説明。

<主な意見>

(小渡会長)

- ・ 6 月までに計画を策定して認定申請書を提出するとなると、工程的に厳しいですね。

(田中委員)

- ・ 厳しいと思うが、補助をもらうためにやらざるを得ないと思っている。

(小渡会長)

- ・ どの程度の計画が必要になるのですか。

(田中委員)

- ・ 資料 P2 に記載のとおり、目的・必要性・目標などを記載することになっている。
- ・ 三沢市は過疎地として認定を受けているわけではないので、交通不便地域としての認定を受けられるかどうか、ということをお早めに想定できないと計画も策定しにくい。事務局には負担をかけることになるので、早めに局としての指針を示してもらうように依頼しているところである。

(小渡会長)

- ・ せっかく新しい制度ができたので、事務局を中心に頑張ってもらいたい。

(事務局)

- ・ どの路線、系統を新しい補助事業として申請するかについては、十和田観光電鉄さんと協議をしながら詰めていかなければいけない。早急に進めていく予定であるが、申請する路線の決定後、計画を策定し、運輸局に申請するという流れとなるが、その際には、この交通会議での合意が必要になってくる。今後も皆様に協議頂く場面が出てくると思うので、よろしくお願ひします。
- ・ もうひとつ補足させていただきます。現在のみ一歩実証実験は 9 月 30 日までの予定となっておりますが、その間に実態調査を実施して、必要であれば 10 月 1 日以降にダイヤ等の見直しを行うということになる。これに先行して、6 月 30 日までに新しい補助事業の対象とする路線を決めることになるため、補助を受けられる可能性がある路線については、エントリーしておくべきかと考えている。

(小渡会長)

- ・ このような制度ができるということは、ニーズがあるからだと思う。新年度の忙しい時期かもしれないが、事務局を中心に頑張ってもらいたい。

【(3) 三沢市コミュニティバス「みーばす」車両デザイン公募作品審査】

資料「協議事項(3)」に基づき、車両デザインを審査。

(事務局)

これまでの経緯、審査状況を事務局、千代田コンサルタントから説明。

(小渡会長)

- ・ 応募作品の中から、事務局が1次選定し、これまでに、さらに委員の皆様から3案の候補を挙げて頂いたところである。
- ・ その結果、No.69が8票、No.33が7票、No.47とNo.65が6票ということになっている。この中から、最優秀賞1点、優秀賞1点、佳作1点を決めるということになる。

(遠藤委員)

- ・ 候補が4点ということなので、佳作を2点として、4点を表彰の対象にしてはどうだろうか。

(小渡会長)

- ・ 同点の作品から絞り込むのであれば、佳作を2点という提案である。最優秀賞が2点というわけにはいかないかもしれないが、佳作2点ということなのでどうだろうか。

(各委員)

- ・ 意義なし

(小渡会長)

- ・ 点数どおりであれば、No.69が最優秀ということになるが、いかがでしょうか。

(小笠原委員)

- ・ やはり、作品の組み合わせというものがあっても良いと思う。

(事務局)

- ・ 最優秀、優秀、佳作は票数のとおりとします。
- ・ デザインを組み合わせる必要ないということであれば、最優秀賞のNo.69の単一作品とするが、優秀賞、佳作の作品も優れているので、No.69をベースとして組み合わせるほうが良いということであれば、事務局で組み合わせのデザインを考えてみる。応募された方の意向もあると思うので、確認しながらということになるかと思うが。

(小渡会長)

- ・ デザインなので、ご本人の方から了解を得たうえで進めていただきたい。
- ・ 組み合わせたほうが良い作品になるか、組み合わせなかったほうが良い作品になるかは、完成したデザインを見てみないと分からないと思う。今後はどのような予定になりますか。

(事務局)

- ・ 今日の場合では、複数の作品を組み合わせても良いということを確認したい。その後は、事務局で応募者の意向を確認しながら、組み合わせのデザインを作成していきたい。

(小渡会長)

- ・ 満票(委員の全ての方が投票した場合)は何点ですか。

(事務局)

- ・ 19名の方に投票して頂いたので19票です。

(小渡会長)

- ・ 約半数の方が、No.69のデザインに投票されたということですね。組み合わせということに対して、みなさんのご意見はいかがでしょうか。

(鈴木委員)

- ・ デザイン自体を変えても良いということになれば、飛行機をビードル号に変えてもらうとか、配色を変えてもらうとか、ということも出てくると思う。

(小渡会長)

- ・ いづれにしても応募者の了解を得たうえで進めていく必要があると思われるので、ここから先は事務局にお任せして、最終案を再度ご提示頂くということではいかがでしょうか。

(各委員)

- ・ 意義なし

6 諸報告

【(1) 三沢市コミュニティバス愛称募集に係る受賞者表彰について】

事務局等から、三沢市コミュニティバスの愛称として決定した「みーばす」の応募者への表彰状況について説明。

(事務局)

- ・ 当初、この交通会議の場で表彰式を行うことを予定していたが、震災の影響で交通会議が延期になったこと、また、受賞者の都合が合わなかったということから表彰式を行うことができなかった。このため、事務局が代表して、表彰状と商品をお渡しした。

【(2) あしあとランプの新ダイヤへの対応状況について】

事務局等から、資料「諸報告(2)」を説明。

<主な意見>

(小渡会長)

- ・ ソフトの部分で情報提供内容が充実していくといいですね。
- ・ 「みーばす」という名称の認知度はどうですか。

(事務局)

- ・ 取り組みとしては弱い部分もあるので、今後、さらに浸透していけば良いと思っている。

(坂本委員)

- ・ 最近、みーばすに対する苦情はありますか。

(事務局)

- ・ 11月の第1期実証実験開始時には、多いときには1日に5~10件ほどの苦情、要望の電話がかかってきていたが、4月からの第2期実証運行開始後は、問い合わせはあるが、苦情はほとんど受けていない。さらなる要望等については、今後の調査を通じて把握していきたい。

(佐藤委員)

- ・ 4月以降、私の耳には苦情は1件も入ってきていない。空港の乗り継ぎがなくなって良かったという電話は数件頂いています。三沢駅東口をルートとしたビードル東線は、インパクトがあると期待していたが、お褒めも苦情もないという状況である。

(事務局)

- ・ 浜に住んでいる方から「本数が少ない」という苦情を聞いた。本数が増えれば乗るかということまではつかめなかった。町内会などからのまとまった意見ではなく、個人的な意見のようではあった。空港の乗り継ぎがなくなったことに対しては、良かったという意見をよく聞きます。

(山本委員)

- ・ 4月からの第2期実証運行開始後は、ルートやダイヤについての問い合わせが多く寄せられていたが、10日過ぎから問い合わせの電話がなくなった。市民の皆様に定着してきたと感じている。

(小泉委員)

- ・ 以前の100円バスと比較して利用者数はどのように変化しているか。

(事務局)

- ・ ルートが変わったため単純な比較はできないが、想定していたレベルは確保できていると感じている。希望としては、もう少し利用者数を伸ばしたいので、利用促進の部分にも取り組んでいきたい。

(小渡会長)

- ・ 実証運行なので、変更することが多くなると思うが、利用者の立場からすると、混乱することもあると思うので、丁寧な見直しが必要だろう。

(事務局)

- ・ 路線の再編により、効率性はかなり上がったと思う。また、通勤、通学時間帯における鉄道との接続についても十鉄さんに配慮頂いた。しかし、財源も含めた増便の検討など、課題も残されていると感じている。

(小渡会長)

- ・ 事務局を中心に頑張ってもらっている。今後もよろしくお願いします。

4 閉 会

以上